

## たじみん昼話 146

### 言語化と表現力

「話の内容が伝わる」とは、内容を相手が理解したということだ。頭に想起した自分の思いや考えを言語(相手に合わせて)変換し、それを正確な言葉として表現(発音)し、相手がそれを正確に受信して理解できたということだ。

我々は日々様々な事を伝えあっている。時には正確に伝えきれない事もある。それが悩みや悔しい思いに繋がって、苦しみを覚えることもある。特に、物事を自分基準で感情的に判断しがちな10代は、感情的になり易い分、他の年代よりもそれが多い。そんな多感な世代における悩みの常連は人間関係だ。そしてそこに頻出するWordは、「人を信じる」だが、その「人」が指すのは、他人と自分だ。

女優の芦田愛菜(16才)さんが、主演映画「星の子」のテーマ「信じる」について語った。

「『その人を信じる』というのは、その人自身を信じているのではなくて、自分が理想とする人物像に期待してしまっていることなのかな」「だからこそ人は、裏切られたとか言うけれど、それはその人の見えなかった部分が見えただけであって、そのときに『それもその人なんだ』って受け止められる揺るがない自分があることが信じられることなのかなと思った」「だからこそ人は『信じる』って口に出して、不安な自分があるからこそ成功した自分や理想の人物像にすがりたいんじゃないかなって思いました」

この言葉が心に響いた多治高生は少なくないのではないだろうか。この言葉が響いたのは、幼少期から様々な期待を背負って活動している彼女が、常に対峙する、「いつか自分は他人を裏切り、その期待に添えなくなるのではないか」という不安や恐れを、私達が大なり小なり持っているからであり、それをシンプルだが適切な表現で彼女が語ったからだろう。

多治高生も、彼女とは違った形のプレッシャーの中で日々を過ごしていると推測できる。だから彼女と同様に素晴らしい考えや思いは心に秘めていると思う。後は、他人が共感できる適切な言葉を紡ぎ出して、自分が思っている事を正確に表現して伝えるだけだ。

自分の思いを正確に伝える言葉をどう選択して紡ぐのか。その練習と答えを出す場所は、多治見高校の教室だ。